

社会

小学校第5年 「国土を守る」

●これは、「埼玉県小学校教育課程評価資料 平成23年3月」のP46～47を基に、加筆・修正して作成したものです。

我が国の国土では様々な自然災害が起こりやすいこと、その被害を防止するために国や県が様々な対策や事業を進めていることなどを調べ、防災の取組に関心をもってかかわろうとする態度を育成する授業です。展開中の1から4は以下の【課題解決のための授業改善の視点】のそれぞれの取組であることを表します。


【課題解決のための授業改善の視点】

- 1 見通しを立てたり振り返ったりする学習活動
- 2 作業的・体験的な学習、問題解決的な学習の重視 児童の主體的な活動の場の設定
- 3 様々な資料（地図、統計、写真、年表など）の活用
- 4 個に応じた指導の充実 指導と評価（支援）の一体化



【本時の目標】

- (1) 水害以外の自然災害への対策や事業について、文献資料やホームページ資料を活用して調べ、水害で学習したことを生かしてノートにまとめることができる。
- (2) 日本では様々な自然災害が起こり、国や県が対策や事業を行っていることを理解している。

学習活動	学習内容	評価と指導の工夫 評 評価（→支援） ★教育に関する3つの達成目標との関連 ◎学力向上プランとの関連	資料
<p>「教育に関する3つの達成目標」との関わりを示しましょう。*効果の検証結果などから児童の実態を的確に把握しましょう。</p> <p style="text-align: right;">4</p>	<p>★学習の準備を整え、授業にのぞむことができる。</p>	<p>◎被害の様子を写真等で示し、調べる意欲を高める。</p>	<p>学習問題を提示（板書）し、学習の見通しをもたせましょう。 1</p>
<p>1 我が国で近年起こった自然災害の地図や年表から、気付いたことを発表し合う。</p>	<p>○自然災害の種類と被害分布 ○自然災害が起こりやすい国土の特色</p>	<p>年表・地図・グラフ等の資料を活用して調べる学習活動を積極的に取り入れましょう。 3</p>	<p>・自然災害地図 ・自然災害年表 ・自然災害写真</p>
<p>2 自然災害の被害を防ぐために、国や県はどのような対策や事業をしているか、各自事例地を選び、用意された資料を使って調べてわかったことや考えたことをノートに書く。</p> <p>事例地</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地震（静岡県静岡市） ・津波（和歌山県串本町） ・雪害（新潟県津南町） ・噴火（東京都三宅村） ・土砂くずれ（宮崎県日之影町） 	<p>○被害を防ぐための対策や事業 ○各事例地における対策や事業 ○事例地のハザードマップ</p> 	<p>評 水害以外の自然災害への対策や事業について、文献資料やホームページ資料を活用して調べ、水害で学習したことを生かしてノートにまとめている。</p> <p>【技】〈行動・ノート〉 →読み取りでつまづいている児童には、資料の見方について、水害対策で学んだ方法をもう一度確認し、箇条書きにできるようにする。 →資料から読み取って適切にまとめている児童には、活動を認めて称賛し、水害対策との共通点について考えるよう促す。</p>	<p>本時の目標が、本時の評価につながるようにしましょう。 *目標と指導と評価・支援の一体化 4</p> <p>・事例地のホームページ資料 ・防災マップ</p> <p>○資料の読み取りができていない児童への助言 「水害対策では何の資料を調べたかな。」「避難の仕方資料を使おうね。」「大事なことばだけ書いてみよう。」</p>
<p>導入は、児童を授業に引き込む重要な時間です。問題意識や興味・関心を高め、学習への必然性をもたせるように工夫しましょう。 *写真、ビデオ、実物教材、新聞記事等児童にとって身近で興味・関心を高める資料を活用することが有効です。 *記憶、知識を中心とした導入は、意欲を低下させることが多いです。 1</p>		<p>○資料の読み取りができていない児童への助言 「災害施設や市民向けの資料をよく調べているね。」 「水害対策と似ているところを見つけてみよう。」</p>	

児童同士が十分に関わることができるように時間配分をしましょう。

2

個人、ペア、グループ、一斉等、思考を深めたり、表現力の育成を図ったりするために、目的に応じて学習形態を工夫しましょう。
* グループ活動の場合、人数にも配慮しましょう。

2

3 自然災害対策を調べて分かったことを、グループで発表し合い、様々な事例地の情報交換をする。

国土の環境と自然災害の対策や人々の生活

◎4人一組で、様々な事例地で調べたことを発表し合い、話し合う。
★先生や友だちの発表をしっかりと聞き、自分の考えを伝えることができる。

・ハザードマップ
・ノート

授業のねらいをしぼり、児童の主体的な活動の場面を設定しましょう。

2



本時のねらいにそって授業の振り返りを行います。

1

4 グループで話し合ったことを基に、国や県の災害対策について自分の考えを見直し、ノートにまとめ整理する。

○本時の学習の振り返り



○理解できている子どもへの助言

*様々な対策や事業から次時へとつなげる。

「どの自治体とも避難のしかた、マップ、対策施設があることをよく調べているね。」

「私たちにできることは何か。」

○自分の考えをノートにまとめ整理する。

○まとめ

評価規準に達していない児童や十分達成できていない児童に対する支援の手立てを具体的に示しましょう。
* 一人一人の評価に基づく具体的な指導の充実

4

【評】 日本では様々な自然災害が起こり、国や県が様々な自然災害の対策や事業を行っていることを理解している。
【知・理】 〈発言・ノート〉
→理解できていない児童には、資料や発言からどのようなことが行われているかを確認できるようにする。水害対策との共通点も見付けることができるようにする。
→様々な事例地の自然災害の対策や事業の共通点を見だし理解している児童を称賛し、学級全体に広め、災害防止に向けて自分たちでできることや大切なことを考えるよう促す。

○理解できていない子どもへの助言
「ノートに書いたことを確認しよう。」
「Aさんの火山の発表内容は何か。」
「水害対策との共通点は何か。」

評価は1単位時間に1~2にしましょう（毎時間、4観点すべての評価をするのではなく、評価の重点化を図る）。
* 本時の目標をしぼって明確にするとともに、その目標に関わった内容について評価を通して取り上げること、さらに評価に応じて、個に応じた手立てを講ずることが重要です。

4

*本時を受けて次時では、＜自然災害による被害を防止するために自分たちにできることを考え、話し合う＞学習が計画されています。『言語活動の充実に関する指導事例集』（文科省）においても＜互いの考えを伝え合い、集団の考えを発展させる事例＞として「自然災害を防ぐ」単元の指導例を掲載しています。

板書は、本時の流れ（活動・思考）が整理されるようにしましょう。

1

【板書計画】

学習課題

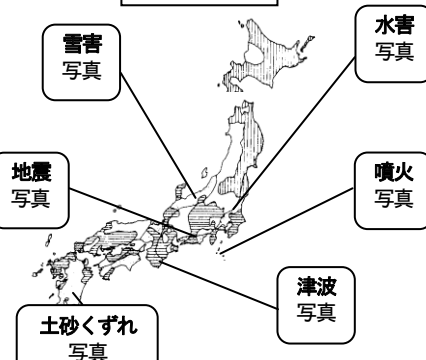
他の自然災害にも水害と同じように対策が行われているのだろうか。

板書にも課題を明示する。

自然災害年表

H10	1月	地震発生	福島県	死者10人・負傷者100人
H10	8月	台風発生	九州	死者1000人・負傷者1000人
H10	9月	台風発生	中国	死者1000人・負傷者1000人
H10	9月	台風発生	東北	死者1000人・負傷者1000人
H10	7月	地震	宮城	死者5000人・負傷者5000人
H10	9月	台風	沖縄	死者100人・負傷者200人
H10	9月	地震	熊本	死者1000人・負傷者2000人
H10	7月	台風発生	注文	死者11人・負傷者1500人
H10	12月	突如発生	和歌山	死者1000人・負傷者1000人
H10	3月	地震	福岡	死者1000人・負傷者2000人
H10	7月	大雨	熊本	死者1000人・負傷者2000人
H10	4月	雪害	北海道	死者100人・負傷者100人
H10	7月	豪雨	熊本	死者1000人・負傷者2000人
H10	11月	台風発生	和歌山	死者1000人・負傷者2000人
H10	6月	豪雨	熊本	死者1000人・負傷者2000人
H10	5月	地震	宮城	死者1000人・負傷者2000人
H10	7月	大雨	熊本	死者1000人・負傷者2000人
H10	7月	大雨	熊本	死者1000人・負傷者2000人
H10	8月	豪雨	熊本	死者1000人・負傷者2000人
H10	8月	地震	熊本	死者1000人・負傷者2000人
H10	9月	豪雨	熊本	死者1000人・負傷者2000人
H10	10月	豪雨	熊本	死者1000人・負傷者2000人
H10	12月	豪雨	熊本	死者1000人・負傷者2000人
H10	1月	豪雨	熊本	死者1000人・負傷者2000人
H10	3月	地震	熊本	死者1000人・負傷者2000人

自然災害地図



まとめ

水害以外にも地域によってさまざまな自然災害がおこっている。
地形や気候と関係があるようだ。
◇地震…全国的 → 日本は火山活動が活発
◇津波…海岸沿 → 日本は四方が海
◇雪害…日本海側 → 世界有数の豪雪地帯
◇水害・土砂くずれ → 梅雨や台風の影響
※国や県、地域の人々はさまざまな対策をおこなって災害に備えている。
→ 一人一人の協力や防災意識が必要!!

教師自身が授業の見直しをもつために、指導案に板書計画を立てて授業に臨みましょう。

指導者は学習指導案の中に学習課題の答えを示しましょう。

社会科では、板書の中に資料も位置付けると、内容の理解を図ったり、思考を促したりするのに効果的です。あらかじめ資料の大きさや位置を確認し、板書計画を作成すると、実際の授業で生かれます。

参考 小学校学習指導要領解説 社会編（文部科学省）
埼玉県小学校教育課程評価資料（埼玉県教育委員会）
言語活動の充実に関する指導事例集（文部科学省）

